2023 年 3 月 20 日（月）11:10-12:10

海外における小・中・高・大の連携―
フィンランド・オランダ・ドイツ・オーストリアの事例より―
Cooperation among elementary, secondary and higher education overseas: cases from Finland, the Netherlands, Germany and Austria
JACET 海外の外国語教育 SIG

本シンポジウムは、独自の視点で 4 か国における異校種間の連携の事例を紹介しながら、日本の外国語教育に資することを目指す。

フィンランドでは、日本の学習指導要領にあたるフィンランドのナショナルコアカリキュラムや教科書、Matriculation Examination の英語問題を基に、各学校段階の連携がどのように目指されているかを報告する。

オランダでは、バイリンガル教育を試験的に実施する小学校が点在し、中学・高校では 1/5 以上にバイリンガル・ストリームが設置されている。他の連携も含め、自由な選択を許容しつつ英語力強化を推進する教育事情を考察する。

ドイツでは、複数の中等教育機関があり、初等中等教育を管轄するのが州であることから学校種の連携も多様である。そこで、言語教育のなかで対象年齢に応じて「ランデスクンデ」がどう扱われているかを考えていく。

オーストリアでは、複言語・複文化主義を軸とした外国語重視の言語教育政策がとられてきたが、中でも CLIL を活用した異校種間の連携に関し、教育省の資料等を基に検討する。

二五義博：山口学芸大学教育学部教授。専門分野は英語教育学で、主に小学校や中学校における、個性を生かす多重知能理論や CLIL の視点を取り入れた、教科横断的な授業の可能性を研究している。

米崎里：関西学院大学教育学部教授。専門分野は英語教育学で、主な研究領域は中学・高校の授業研究、自律した学習者・教師の育成、CLIL 等であるが、最近はフィンランドの英語教育関連の研究を主としている。

髙坂京子：立命館大学経営学部教授。専門分野は英語学・言語学であるが、海外の外国語教育に深い関心をもつ。とくにオランダ人の英語力の高さに着目し、現地調査を行いつつ、バイリンガル教育（TTO：オランダ版 CLIL）についての研究を進めている。

山川智子：文教大学文学部教授。専門分野は言語社会学、言語文化教育、ドイツ・ヨーロッパ研究。欧州評議会の「複言語・複文化主義」の拓く可能性について、とくにドイツ語圏での言語文化教育を分析しながら研究している。